



平成 30 年 1 2 月 1 8 日

スプレー缶等による火災にご注意を！

～ スプレー缶等の取扱いや廃棄方法に要注意 ～

スプレー缶等による火災は、暖房器具やカセットこんろを使用する冬季に多く発生しています。平成 25 年から平成 29 年までの 5 年間で 546 件発生し、そのうち、10 月、11 月、12 月、1 月に 240 件発生しています。これからの時季に火災が多く発生する可能性があることから、東京消防庁では注意を呼びかけています。

【スプレー缶等とは】

可燃性ガスを噴射剤とした整髪剤、消臭剤、パーツクリーナ等のスプレー缶と、カセットこんろの燃料として用いられるボンベを合わせています。

【スプレー缶等に起因する火災発生状況】

前年のスプレー缶等による火災では、死者が発生しています。本年 11 月 30 日までで 79 件の火災が発生し、そのうち 19 件（24.1%）は穴開けによる火災です。

これから年末に向けての大掃除の際に、廃棄のためスプレー缶等に穴を開けたことに起因する火災が多く発生する可能性があるため、注意が必要です。

【火災を防ぐために】

上記の火災状況、事例、注意点は、別紙を参照してください。

※ 実験映像と火災の事例写真を希望する社は、広報課報道係までご連絡ください。

問合せ先

東京消防庁 (代)	電話 3212-2111
予防部調査課	内線 5065 5066
防災部防災安全課	内線 4206
広報課報道係	内線 2345～2350

【別紙】

＜最近5年間（平成25～29年）の主なスプレー缶等による火災の状況＞

1 年別火災状況

表1 年別火災状況

年 別	合 計	建 物					車 両	船 舶	そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	死 者 (人)	負 傷 者 (人)
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や							
合計	546	337	3	9	21	304	190	1	18	1,188	282	2	288
25年	129	72	-	1	4	67	51	1	5	54	21	-	55
26年	121	69	1	1	6	61	45	-	7	263	53	1	60
27年	112	67	-	3	1	63	43	-	2	199	2	-	59
28年	112	75	1	-	6	68	34	-	3	268	59	-	73
29年	72	54	1	4	4	45	17	-	1	404	147	1	41
30年	79	61	-	1	6	54	16	-	2	94	134	-	48

注1 平成30年の数値は11月30日までの速報値で、今後変更になる場合があります。

2 合計欄の数値は、平成25年から平成29年の合計値です。

スプレー缶等に起因する火災は、過去5年間では平成25年の129件が最も多く、平成26年からは減少傾向で推移していましたが、平成30年は増加しています。

2 スプレー缶等による月別火災の発生状況（最近5年間）

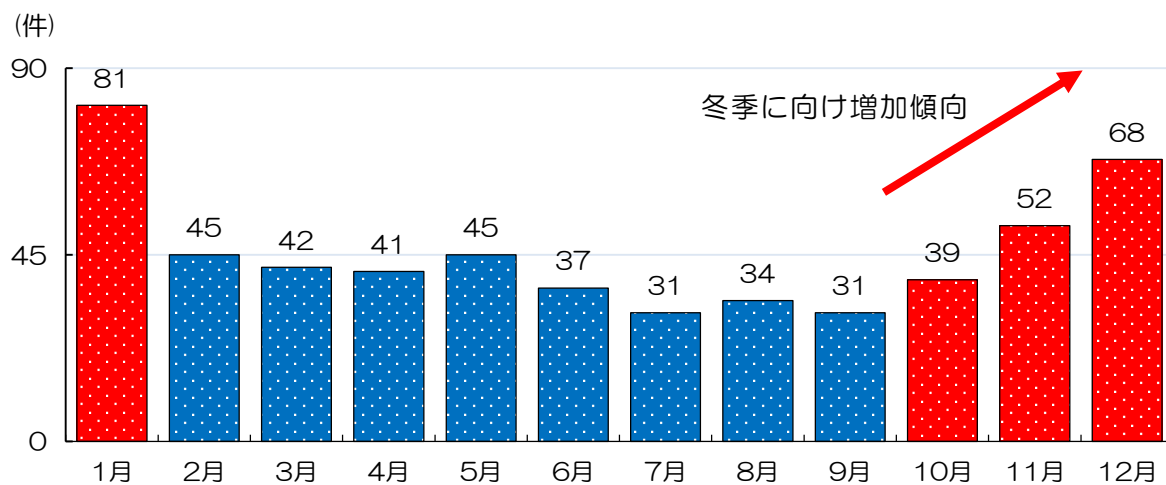


図1 スプレー缶等の月別火災状況（平成25年から平成29年）

3 火災発生の要因等

表2-1 火災発生要因別火災件数(平成25年～平成29年)

火災発生要因	合 計	缶の種類の										死 者	負 傷 者
		スプレー缶									燃料 カセット ボンベ コンロ 用		
		ヘア スプレ ー	殺 虫 剤	制 汗 スプレ ー	消 臭 スプレ ー	パ ー ツ ク リ ー ナ	塗 料 スプレ ー	冷 却 スプレ ー	そ の 他 ・ 不 明				
合計	546	70	61	48	22	21	6	6	114	198	2	288	
廃棄	小計	350	64	19	46	3	18	4	3	87	106	-	135
	清掃車	185	38	16	15	2	9	2	-	56	47	-	8
	穴開け	141	24	3	30	1	9	1	2	18	53	-	123
	その他	24	2	-	1	-	-	1	1	13	6	-	4
取扱不適	小計	196	6	42	2	19	3	2	3	27	92	2	153
	厨房器具	27	1	5	-	-	-	1	1	1	18	-	29
	暖房器具	26	1	10	2	1	1	-	1	8	2	1	30
	装着不良	28	-	-	-	-	-	-	-	-	28	-	11
	その他	115	4	27	-	18	2	1	1	18	44	1	83

注1 平成25年から平成29年までの累計値です。

2 取扱不適の「その他」には、ろうそくを使用している付近で殺虫剤を噴射し引火、コンプレッサを整備中にパーツクリーナを噴射し引火、ライターガス充填後にライター点火し漏れたガスに引火などがあります。

表2-2 火災発生要因別火災件数(平成30年)

火災発生要因	合 計	缶の種類の										死 者	負 傷 者
		スプレー缶									燃料 カセット ボンベ コンロ 用		
		ヘア スプレ ー	殺 虫 剤	制 汗 スプレ ー	消 臭 スプレ ー	パ ー ツ ク リ ー ナ	塗 料 スプレ ー	冷 却 スプレ ー	そ の 他 ・ 不 明				
合計	79	8	6	6	4	4	-	-	13	38	-	48	
廃棄	小計	35	7	3	6	3	-	-	-	7	9	-	18
	塵芥車	15	4	1	2	1	-	-	-	4	3	-	-
	穴開け	19	3	2	4	2	-	-	-	3	5	-	18
	その他	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
取扱不適	小計	44	1	3	-	1	4	-	-	6	29	-	30
	厨房器具	5	-	-	-	1	-	-	-	-	4	-	4
	暖房器具	6	-	3	-	-	1	-	-	2	-	-	3
	装着不良	8	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	7
	その他	25	1	-	-	-	3	-	-	4	17	-	16

注1 数値は11月30日までの速報値で、今後変更になる場合があります。

2 取扱不適の「その他」には、作業着の汚れを取るためにパーツクリーナを噴射し、直後にライターを点火したためガスに引火したものなどがあります。

発生要因では、廃棄のための穴開けに起因する火災が 141 件発生しています。平成 30 年は、79 件中 19 件が穴開けによるものです（表 2-1、2-2）。

平成 29 年中のスプレー缶等の穴開け 21 件を発火源・出火箇所別にみたものが表 3 です。穴開け 21 件中 15 件が住宅の台所で発生し、その際に使用していたガステーブル、瞬間湯沸器などの炎が漏れたガスに引火し出火しています。

表 3 スプレー缶等の穴開けによる火災の発火源/出火箇所別状況

発火源 / 出火箇所	合計	台 (住宅) 所	(調理 場 等) 場	居 室	作 業 場
合計	21	15	4	1	1
ガステーブル	12	11	1	-	-
ガスレンジ	2	1	1	-	-
金属と金属の衝撃火花	2	-	1	1	-
瞬間湯沸器	2	2	-	-	-
カセットこんろ	1	1	-	-	-
大型ガスこんろ	1	-	1	-	-
不明	1	-	-	-	1

【こんなことで火災に】

- 1 カセットこんろに燃料ポンベを装着する際に、誤って装着したためガスが漏れて出火した。
- 2 ガステーブルや暖房器具を使用中に、近くのスプレー缶等が破裂して出火した。
- 3 調理中のガステーブルの付近で、廃棄のためスプレー缶等を穴開けしたところ、スプレー缶等から可燃性ガスが漏れ出火した。

【火災を防ぐために】

- 1 カセットこんろに燃料ポンベを取付ける際は、取扱説明書をよく読み、燃料ポンベ容器ガイドの切り込み部分を本体容器受けガイドの突起部分に正しく合わせて取付けましょう。
- 2 スプレー缶等はガステーブルや暖房器具の上やそばなど、高温となる場所には置かないようにしましょう。
- 3 スプレー缶等を廃棄する場合は、中身を使い切り、各区市町村が指定する廃棄方法に従って捨てましょう。

【火災事例】

事例1 「厨房内でカセットボンベを穴開けし出火した火災」

出火時分 平成29年11月 22時ごろ

用 途 飲食店

被害状況 建物ぼや 厨房用品等焼損

概 要

この火災は、飲食店1階の厨房から出火したものです。

出火原因は、店長が厨房内のシンクでカセットボンベを穴開け中に漏れたガスが大型ガスこんろの炎に引火し出火したものです。

店長は、燃えているカセットボンベにまな板をかぶせ水道水をかけて初期消火しました。

初期消火後、店長は従業員に通報を依頼し、従業員が店の電話から119番通報しました。

写真 1-1 厨房の状況



写真 1-2 シンク内の状況



事例2 「スプレー缶の穴開け後に発生した火災」

出火時分 平成30年1月 13時ごろ

用 途 複合用途（事務所・共同住宅等）

被害状況 建物部分焼 2㎡、天井1㎡焼損 負傷者2人

概 要

この火災は、複合用途建物の事務所部分の2階台所から出火したものです。

出火原因は、事務所の従業員が台所のシンク内でスプレー缶3本に穴を開けた後、ガス給湯器のスイッチを入れたため、シンク内に滞留していたLPガス（殺虫剤）がガス給湯器の点火スイッチの火花に引火し出火したものです。

この火災で、従業員2人が初期消火中及び避難する際に煙を吸って負傷しています。

事例3 「カセットこんろ用燃料ポンベの装着不良により出火した火災」

出火時分 平成23年2月 20時ごろ

用途等 複合用途 (飲食店・共同住宅)

被害状況 建物ぼや カセットこんろ1台焼損 負傷者2人

概要

この火災は、複合用途ビルの1階飲食店から出火したものです。

出火原因は、店員が燃料ポンベを装着する際、切り込み部分を容器受けガイドの突起部分に正しく合わせて取り付けなかったため、接続部分から燃料ガスが漏れ、器具栓つまみを回して点火した時の火花で引火したものです。

店員が客席でカセットこんろに燃料ポンベを取り付けて点火したところ、カセットこんろ脇から炎が1m位立ち上がったのに気づき、店内に設置されていた粉末消火器1本を放射して初期消火しました。通報は、店員が初期消火後、携帯電話で119番通報しています。なお、店内にいた客のうち2名が、粉末消火器の薬剤を吸って咽頭痛を負っています。

写真2-1 カセットこんろの状況



写真2-2 燃料ポンベ容器ガイドの状況



[カセットこんろと燃料ポンベの装着方法]

【写真A 正しい装着】



【写真B 誤った装着の例】



燃料ポンベ容器ガイドの切り込み
ここを本体容器受けガイドの突起部分に合わせて装着する

【スプレー缶等火災の実験映像】

ガステーブル使用中に流し台でスプレー缶等の穴開けをした場合の実験です。

1 流し台正面を撮影

- (1) ガステーブルで湯沸し中に、流し台の中でスプレー缶等に穴開けをしようとしている状況です（流し台の中にスプレー缶等があります）。



- (2) スプレー缶等に穴開けを実施した状況です。残存ガスが漏れ、ガステーブルの炎により引火（ガステーブルの炎は点火状態です）。



- (3) 炎が流し台に向けて拡大しています。



- (4) 流し台の中に滞留したガスに引火し、炎が拡大しています。



2 流し台側面を撮影

- (1) ガステーブルで湯沸し中に、流し台の中でスプレー缶等に穴開けをしようとしている状況です（流し台の中にスプレー缶等があります）。



スプレー缶等

- (2) スプレー缶等に穴開けを実施した状況です。残存ガスが漏れ、ガステーブルの炎により引火（ガステーブルの炎は点火状態です）。



- (3) 炎が流し台に向けて拡大しています。



- (4) 流し台の中に滞留したガスに引火し、炎が拡大しています。

